

記録不備に係る直接原因と根本原因の分析

当社・協力企業の多くの人に関わっていながら、点検作業を進める中で、問題に自ら気づき、改善することができなかった根本原因について、分析を進めてまいりました。その結果、当社の品質保証活動の取り組みに弱いところがあり、それが点検記録の不備に繋がったものと考えております。

【根本原因①】（仕組み）

新たな業務でミスを防止するための組織的な備えが不足

(1) 担当個所の問題点

新たな業務の実施にあたり、計画から実施までの各段階において、ミスを防止するための組織的な取り組みが不足していた。

＜計画段階＞

- ・ミスの想定と回避策の検討（記録様式、ルールなど）

＜業務着手時＞

- ・当社・協力企業間での留意事項の周知・共有

＜業務実施中＞

- ・ミスの兆候の発見と関係者間での問題共有・改善

(2) 品質保証部門の問題点

品質保証活動を統括・指導・助言する品質保証部門において、新たな業務の実施にあたり、担当個所と一体となった活動ができていなかった。

【根本原因②】（教育）

定常業務での管理手法を新たな業務へ応用する力が不足

定常業務で定着・機能している品質保証活動の管理手法について、新たな業務へ適切に応用する力を養成する教育が不足していた。

【直接原因】（担当個所）

新たな業務である地震後の設備健全性確認点検の実施にあたり、以下の問題点を抱えたまま、点検作業を実施・継続した。

記録様式

- ① ミスが発生しやすい記録様式

ルール

- ② 不適合管理の扱いや記録訂正方法等のルールが不明確

点検記録の不備として顕在化